

## AXIS Gallery

生誕100周年記念

### 「チャールズ・イームズ写真展 100 images×100 words —偉大なるデザイナーのメッセージ—

#### 開催のお知らせ



photo by Lucia Eames  
©2008 Eames Office LLC

アクシスギャラリーでは、今春、チャールズ・イームズの生誕100周年を記念し、初の写真展となる「チャールズ・イームズ写真展 100 images×100 words —偉大なるデザイナーのメッセージ」を開催いたします。

チャールズ&レイ・イームズは、デザイン、建築、特に工業生産に大きく貢献した20世紀を代表する米国のデザイナーですが、同時に、自身が撮影した膨大な写真コレクション（75万点：米国議会図書館所蔵）でも知られています。本展は、これまで展覧会として公にとりあげられなかったチャールズ・イームズの写真を彼が残した言葉（引用句）とともに紹介するものです。

写真は、彼にとって単に物事を記録するものではなく、デザインプロセスの一部でした。優れたデザインが生まれた背景には、フィルターを通した客観的な視点による判断がありました。また、彼はよく「写真は、食べてもなくなるケーキのようなものだ」と言っていたそうです。つまり、写真を撮る瞬間の喜びと、その瞬間をみんなで共有する楽しさがある、と。

本展で展示される100点の写真は、イームズ・オフィスによりセレクトされました。日常生活、仕事そして旅行など、その切り口は様々ですが、そこには、イームズの鋭いこだわりが見てとれます。本展では、イームズ・オフィスにより制作された『チャールズ・イームズの100の名言』（本展限定ブック）を先着2,500名に配付します。20世紀が生んだ偉大なデザイナーのメッセージは、時代を超えて現代に生きる私たちに多くの示唆を与えてくれることでしょう。

なお、本展は、イームズ・ギャラリー（米国サンタモニカ）をはじめ、オーストラリア、インド、北京で開催されます（会場構成など内容は、各ギャラリーによって多少異なる）。

ぜひ本展を貴誌上にてご紹介いただけますようお願い申し上げます。

アクシスギャラリー

- 展覧会名称：「チャールズ・イームズ写真展 100 images×100 words  
—偉大なるデザイナーのメッセージ—
- 日 時：2008年5月20日（火）～6月8日（日）  
11：00-19：00（最終日は17：00まで）
- 会 場：アクシスギャラリー（東京都港区六本木5-17-1 アクシスビル4F）
- 入場料：1,000円（先着2,500名に限り、本展限定『チャールズ・イームズの100の名言』ブック付）
- 主 催：アクシスギャラリー
- 企画／協力：イームズ・オフィス
- 協 賛：ハーマンミラージャパン株式会社 他
- 会場デザインおよびグラフィックデザイン：廣村正彰
- 読者お問い合わせ先：Tel.:03-5575-8655 E-mail:gallery@axisinc.co.jp  
<http://www.axisinc.co.jp>

■本件に関するお問い合わせ：アクシス佐野恵子

Tel.:03-5575-8391、Fax:03-3583-0199 E-mail:sano@axisinc.co.jp

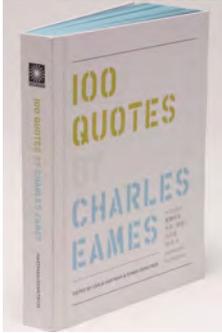
※ビジュアルデータをご用意しています。ご請求お待ちしております。

# AXIS

Press  
2008年3月5日  
02



## 100の名言集より



『チャールズ・イームズの100の名言』  
(イームズペーパー使用、192p  
115×151mm、6カ国語対訳)

(序文より)

チャールズは、自分が話すだけでなく、他人の著書や言葉にも耳を傾けました。彼はたびたびバガヴァッド・ギータの、「結果に関して自信がないまま完成させた仕事は、不安もなく静かに没頭してやり遂げた仕事に到底およばない」という言葉を引用しています。

またこのように考えるようになったのは、物理学者であるリチャード・ファインマンのおかげであるとも言いました。

「自分の好きなことを選び、注意深く、真剣に、能力の限りを尽くしてやってみるといい。そうすれば、世界を変えられるかもしれない」

カーラ・ハートマン  
イームズ オフィス、教育ディレクター

(本文より)

写真を撮ったかい？

情報の時代が終わったら、次は選択の時代である。

結局は、人でもアイデアでも物でも、あらゆるものにはつながりがある。どのように結びついていくかによって、その価値が決まる。

目的に同意できない仕事は引き受けるべきではないし、別のことへの足がかりとして仕事をするべきでもない。これを守れば、自分の経験を存分に活かした仕事ができ、惨めな思いをすることもない。

学生には何よりも、変化する状況の中で自信を失わないことを学んでもらいたい。

できる限り質の高いものを、多くの人が安価に手に入れられるようにしたかった。

自らの体験から学ぶことほど重要なことはない。

苦勞して湿板を作り、自分で感光乳剤を混ぜていた頃があった。そんなことをして1年ちょっと経った時、フィルムが発明されたことを知ったんだ。

ありふれたものにも、格別な美しさがある。

子どもたちには、今すぐには何の役にも立たないような出来事やものも尊重するよう教えなければならぬ。これができないと、人間は次に来る事態を予測することができなくなってしまう。

予測ではなく、私の率直な希望を言おう。これからのデザインでは、デザイナーの顔が見えなくなるといい。

## 会期中のイベント

会期中、ギャラリートークを開催予定。詳細は、[www.axisinc.co.jp](http://www.axisinc.co.jp)



イームズ・ギャラリーでの会場風景